

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

留学プログラム	派遣交換留学		
所属(本学)	理工学研究科 機械宇宙システム専攻		
現在の学年	修士2年		
留学先国	オーストラリア	留学先大学	メルボルン大学
留学期間	2016年2月16日～2016年12月16日		

① 留学先大学(機関)の概略

メルボルン大学はメルボルンの中心地(CBD エリア)から北に2kmほど行ったところにある州立大学です。東工大から行ける交換留学先の中で、もっとも都市の中心部に近い場所に位置している大学であると思います。150年以上の歴史があり、そのレベルは世界と互角に戦うレベルで、特に医療・生物系の専攻に強い様です。

東工大と比較すると様々な違いが見えてきます。学食はありませんが、ファーストフード店からクレープ屋まで様々なフードショップが学内にあります。図書館も専門分野毎に存在し、それぞれには広々とした学習スペース/ミーティングルームと多数のデスクトップ PC が存在します。自分は利用しませんが、ジムや運動場などの設備も東工大より充実しているようでした。

メルボルンという都市の特徴としては様々な人種がいることが挙げられると思います。また彼らを受け入れる国民性と生活しやすい環境が整っています。

② 留学前の準備

まず、Semester 1(秋学期)から留学をスタートするように計画しました。その理由としては、卒業を1年遅らせ、留学中にある長期休暇を冬休みにすることで、東工大での在籍期間を2ヶ月程度延長できること。また、Semester 1には様々なウェルカムプログラムが行われることがありました。Semester 1からスタートすると2月から12月の10ヶ月間の留学となります。

就職活動は外資系などの一部企業を除いて、年が明けてから活発になることが予想されていたので、基本的には問題ありませんでした。しかし、学内の第一回就職説明会や一部企業の冬/春インターンには間に合わない可能性があります、気にしないことにしました。

2月中旬から留学したことで、東工大後学期の期末試験受験/期末レポート提出をこなすことができるので、留学終了後は就活と修士論文研究に専念できるというメリットもありました。

次に語学試験についてですが、クリアするのにぎりぎりまで手こずりました。最終的には、英語力を鍛えることよりも、試験に合わせた対策が不十分であると感じ、以前研究室にきていた留学生との交流やオンライン英会話を利用して対策することで点数が伸びたと思います。また東工大の外国語学習資料室では無料で様々な語学試験対策本が借りられるので通いつめていました。

ビザについては、自分のときは、オンラインフォームに記入するだけで、すぐに発行され、健康診断の受診は必要ありませんでした。

健康診断の受診は必要ありませんでしたが、歯科治療が現地で必要になった場合に、費用が高額になると聞いていましたので、歯科検診だけは個人的に受診しました。

最後に、住居探しは渡航前よりオンラインで探し、いくつかには目をつけていましたが、あまり役に立ちませんでした。詳しくは⑦に記述します。

③ 留学中の勉学・研究

留学先では 2 学期間授業のみを取っていました。1 学期間に 3 科目を受講していました。これは VISA の要件をクリアする最低必要科目数で、現地の学位取得を目指している学生は 4 科目を受講している学生が多数派でした。

学部生時代に参加したアメリカ超短期派遣プログラムの経験から、海外の方が学校でカバーする内容の進度が遅いと想定されたこと、また東工大で行っていた研究で専攻では学びづらい知識が必要であったことから、電子工学専攻の授業を履修していましたが、それでも自分の既に知っている内容からスタートしたり或いはそれが殆どであったりすることがありました。

しかしながら、それぞれの科目に、事前に単位を取得しておかなければならない科目が規定されており、その審査が厳しく、思う様に履修ができないこともありました。



Probability and Random Models 講義風景



Signal Processing 講義風景

Circuits and Systems

微分を用いた電気回路の理解とブロック線図などを学びました。内容は既習のものが多く、Signal Processing を後期に履修登録するために、履修しました。学期の途中から急遽この授業を履修登録することになり、最初 1, 2 回の実習に参加できなかったため、最終成績はまずまずの結果となってしまったのかなと思います。

Probability and Random Models

高校でやるような確率から始まり、ガウス分布まで学びました。この授業が最も好きで、また得られたものも大きかったと感じました。成績もなかなか良い成績を残せたと思います。

Engineering Practice and Communication

この教科は毎週のグループワークが肝で、自分達で世の中から工学で解決できる問題を探し出し、それに対して 4 つの解決策を提示・調査し、最後にはどの解決策が最も良いか選びました。また、小レポートとして、オーストラリアでの就活の際に提示するレジюме・CV の提出もありました。中国人 3 人と僕 1 人という 4 人でのグループワークで、僕が detail にこだわることでたびたび揉め、また英語表現や論理的文章になっているか等について、レポートは厳しくみられ、成績もまずまずのものになったのかなと思います。

Electrical Device Modelling

高校で習うような電気法則・素子から最後はダイオードまで一通りの電子部品の基礎を学びました。実習では、様々な典型的な回路を組み立て、その回路の構成原理を問われました。単位は取れたものの、正直実習では大体の理解でとどまってしまったように感じるの、そこを詰めることができれば、より良い成績が残せたかなと思います。

Control Systems

大学で習う制御工学に近い授業でした。制御器の設計がメインでした。実習では LEGO を用いて、逆さ振り子の制御を行いました。この教科は試験が難しく、ひねりの効かせてある問題ばかりで、良い成績を取るには深い理解が足りませんでした。

Signal Processing

各種フーリエ変換からダウンサンプリング等まで信号処理の基礎を学びました。この授業は先生の英語がネイティブも聞き取り辛い位なまっけていて講義を理解するのが大変だった上に、実習も講義や演習から飛躍のある内容で大変でしたが、試験は演習問題に類似した問題が多かったので成績としてはまずまずの結果を残すことができました。

④ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

一度だけインターンに挑戦をしようとしたのですが、選考の段階で落とされてしまいました。

旅行は Sydney, Uluru, Tasmania, Perth, Jawa 島(Indonesia)へ行きました。Sydney は家族と共に行きましたが、その他は全て 1 人で計画し、パッケージツアーまたは現地発ツアーに参加しました。1 人旅は初めての経験ではありましたが、様々な方に出会い、友達ができ、Melbourne で再会して遊びに行ったり、他の旅行地で偶然にも再会したりして、友達とではなく 1 人で旅をして良かったと思いました。

Melbourne の日々の息抜きとしては、カフェ巡りや食べ歩きをしたり、趣味である音楽イベントに行ったりしました。音楽イベントでも、何人かの友達ができ、彼らとは音楽イベント外でも遊びに行ったりしました。

日本と比べて Melbourne はコンパクトな街で、CBD エリアと呼ばれる中心部は無料の路面電車が走っていますが、歩くのが好きであれば徒歩でも十分に楽しめる大きさと、1 年の留学期間で堪能できます。

⑤ 留学を終えて、自分自身の成長を実感したエピソード

メルボルンには、移住やワーキングホリデー、留学など様々な方法によって、様々な国から人が集まっています。彼らと交流してみると、彼らの殆どが国という垣根を意識していないように思います。互いに皆を受け入れている感覚がありました。これは日本には無い感覚だったと思います。外国人にとっても、日本人は時間に正確でリスペクトフル(他人に敬意を払う)面がある一方で、オープンではなく優しくはないと思われるようでした。そのような考え方や価値観の共有は、僕の考え方にも影響を与え、一番の成果だったと言えると思います。

勉学面に関しては、③でも述べたとおり想定していたよりも充実度はなかった様に思います。授業内容よりも、講義・実習・演習の 3 つからなる徹底した授業のシステムに感心し、グループワークでできていく友達との文化交流や語学の上達に価値が感じられました。たとえば、グループワークでは、日本人の(あるいは僕の)ディテールにこだわる性格がはっきりと確認できましたし、自分にとって簡単な実習や演習のときには、自分に自信を持ってチームメイトと積極的に交流し、英語力を伸ばすことが出来たと思います。

⑥ 留学費用

奨学金は JASSO より 70000 円/月を頂いていました。

留学前からやっていたオンラインの採点バイトも続けて行っていました。

航空券の値段は、行きは 9 万円弱(Qantas 航空)、帰りは途中 Jawa 島を旅して帰って 7 万円弱(Garuda Indonesia 航空)でした。

家は家賃 1100AUD/月+光熱費等(約 110AUD/月) = 月 10 万円強のシェアハウスに住んでいました。Own room でしたので、学生の身分としては少々高い家に住んではいましたが、Graduate House と呼ばれる寮住まいの友達によると寮に住むよりは安いのではないかという話でした。その他の詳細は以下⑦にて。

食費は月 3-4 万円程でしょうか。しかし、自分で支払った外食はメルボルン内では数えられるぐらいしかしていません。毎日毎食自炊でこの金額です。

保険は東工大から勧められている東京海上日動の海外旅行保険プラン E に加入し、13 万円程を支払いました。因みに、渡航時には帰国日を定めていなかったため、短めの期間で申し込み、帰国日が決定してから延長をお願いしました。

携帯は SIM フリースマホを日本にて 2 万円程で購入し、現地で Vodafone のプリペイド SIM を使っていました。概ね 30AUD/月(約 2500 円/月)支払っていました。大学の空港ピックアップサービスを頼んでいたのですが、そのドライバーさんから、Vodafone のプリペイド SIM はいただけました。

定期券は、移動距離にかかわらず 4.68AUD/日の日割り計算で買うシステムになっていました。ここ数年は年々値段が上がっているようです。

上記で述べた旅行にかかったお金など全て含めて、本留学による支出は 200 万円強だと思います。これに加え、僕の場合は卒業を 1 年遅らせる予定なので 1 年分の学費も必要になりました。

銀行は口座維持費のかからない唯一の銀行であるらしい NAB を利用していました。利率が 1%以上なので、口座を開いたら直ぐに送金してもらいました。基本的に現金を使うのは家賃、光熱費、友達との食事等の際の割り勘、海外旅行時用の現金、ごく一部のクレジットカードを使えないお店での支払いのみなので、必要以上に送金し過ぎないことが重要で、海外送金は約 100 万円のみで後はキャッシングをしていました。

クレジットカードは研究室の先輩に教えていただいた学生用 LIFE カードを主に使用していました。このカードは、海外でのオンラインショッピング以外の概ね全ての支払いの 5%がキャッシュバックされるので貴重です。

⑦ 留学先での住居

自分は Flatmates.com.au や Gumtree といったオンラインでシェアハウスあるいはフラットシェアを探しました。結果的に 4 階建てのシェアハウスに住むことになりました。ロケーションとしては、最寄駅の North Melbourne 駅から徒歩 1 分、大学まではバスで 10-15 分(徒歩 30-40 分)、中心部の CBD エリアも徒歩圏内あるいは電車で 1 駅という好立地でした。各々がオウルームを持っており、自分を含め 3 人が住んでいました。

この家を探すのは割と大変で、サイト上で連絡をとろうとメッセージを送っても返ってこないのは日常茶飯事で、返ってきて早い者勝ちなので、実際に見に行こうと最寄駅に着いたら決まってしまうと言われたこともありました。結果的に家を決めるのに 3 週間かかり、その間は Airbnb で探した家を渡り歩いて住んでいました。

10 月頃には、1 人のハウスメイトがイギリスに移住するとのことで、今度は次の住人を選ぶ側になったのですが、その際に他の人達がどのようなメッセージを送っているかを知ることができました。自己紹介を詳細に書き、更に Instagram のリンクが貼ってあって、写真でもっとよく知ってもらおうと工夫していた人もいて、就職活動の様に真剣にメッセージを練っておけば、多少は苦労しなくて済んだのかなと思ったりもしました。

また、家を出る際には次の住人を探してから出ていくのが普通なのですが、僕は契約する際に、他のハウスメイト達が次の住人を探すという約束を口約束でしていたため、探す必要はありませんでした。

部屋には大きなクローゼットが付いていましたが、家具は一切なかったので Gumtree で中古品を購入し、帰国前にはできる限り売却して帰りました。

⑧ 留学先での語学状況

オーストラリアは英語ができれば十分生活できます。

語学試験に関しては、僕は非常に苦戦を強いられ、期限ぎりぎりでのクリアでした。メルボルンに着いてからは、自分は日常会話の方が苦戦を強いられることが多かったように思います。上記で述べた音楽イベントなどで新しい人と出会っても、なかなか会話がはずまず、友達作りに苦労していました。しかし、ノンネイティブの方達と友達になり話していくことで、語学が上達し、ネイティブの方とも話せるようになり、友達が増えていきました。

メルボルンはワーホリや留学で来るノンネイティブスピーカーがたくさん居ます。近い英語レベル同士なので友達になりやすいですし、様々な訛りに触れることができます。一方で、大学には驚くほどたくさんの中国人がおり、グループワークで中国人がマジョリティのグループに入ると、中国語で彼らだけで進められてしまうこともあります。また、なかなかオージー訛りに触れることは多くなかったと思います。

⑨ 単位認定(互換)、在学期間

奨学金の受給条件を満たす為に、留学先科目名のままの単位認定を試みる予定です。また1年の在学延長をします。

⑩ 就職活動

とくに留学先では行っていませんが、帰国が近づくにつれ就職サイトや情報には目を光らせていました。

冬および春のインターンシップに機会があれば参加し、通常の就活スケジュールに則る予定です。

⑪ 留学先で困ったこと

大学1年時に購入したノートパソコンを留学先に持参したのですが、留学中に何度か充電ができなくなり冷や冷やしたことがありました。大学には予約して使えるデスクトップPCがあるのですが、とても人気で予約するのが大変ですし、1回3時間までしか使えませんでした。また海外でパソコンを買うとキーボードが日本で販売されているものと異なりますし、帰ってから使う際には日本語ソフトを購入する必要があるでしょう。

⑦でも述べましたが、家探しが一番大変だったと思います。10日程で見つかるかなと思い、その予定でメルボルンに行ったのですが、思いのほか長引き、家から家の移動が大変ですし、授業を受けながら家探しをするのも大変だったので、もっと早くメルボルンに行けばよかったと思いました。

⑫ 留学を希望する後輩へアドバイス

留学という経験を通して、漠然と飛躍的な成長があると期待していましたが、それは単なる幻想でしかなかったです。また、自分は少し盲目的に交換留学にこだわり過ぎていたかもしれないと思っており、大学を卒業後、1度働いて留学資金をためてから、学位留学で行ってもよかったかなと少し後悔しているところもあります。しかし、留学中に得られた一つ一つの経験やスキルは、留学でなくても達成・獲得できたかもしれませんが、この10ヵ月という短期間でできたところに価値があったと思いますし、何より留学中にできた友達や出会った方々との交流は、自分の視野を広げ、価値観を変えたと思います。皆さんもぜひ留学に挑戦してみてください。